

産業医学推進研究会のあり方 会員アンケート結果まとめ

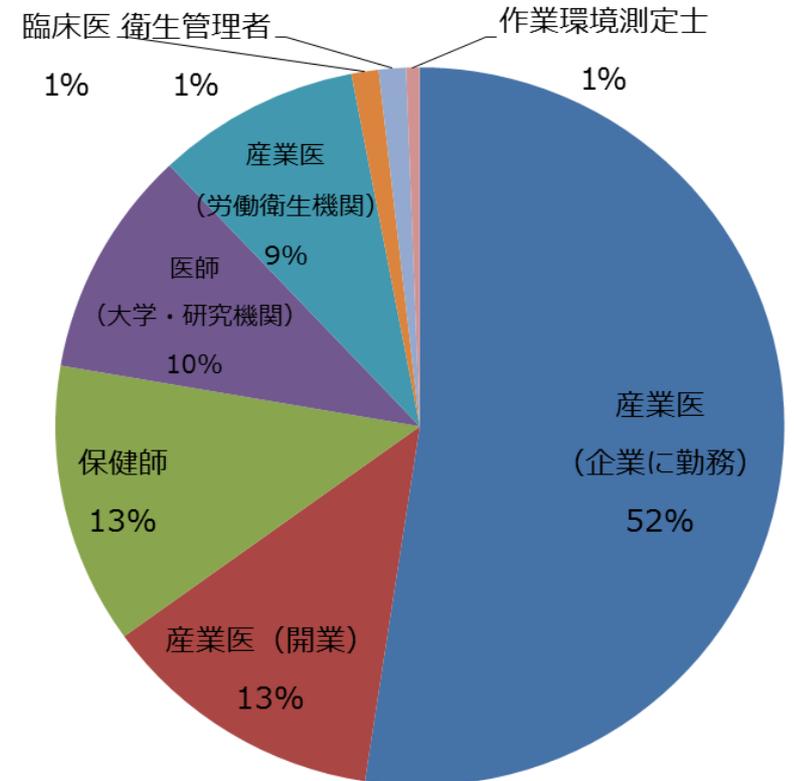
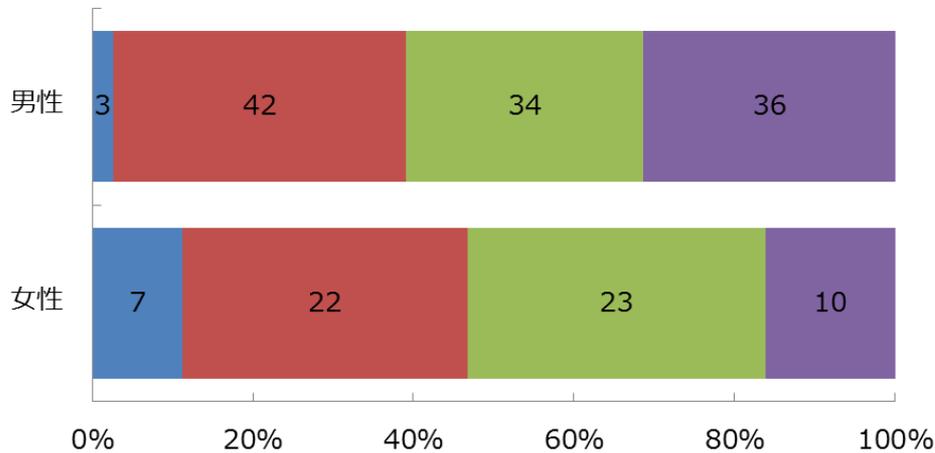
会員アンケート

- あり方検討会で、会員の生の声を聴くためにアンケート調査を実施した。
- 期間 2018年11月25日～12月25日
- 回答者数 181名

医学部	147名
医技短(専攻科含む)	11名
産業保健学部	19名
他	4名

回答者の属性

■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代~



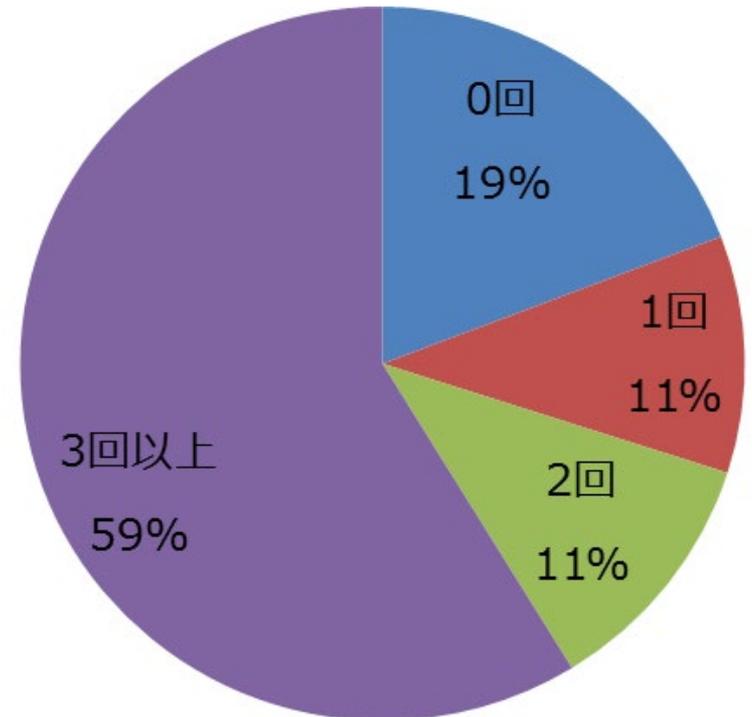
回答者数 181名 回答期間 2018年11月25日~12月25日

産業医学推進研究会への参加

全国大会

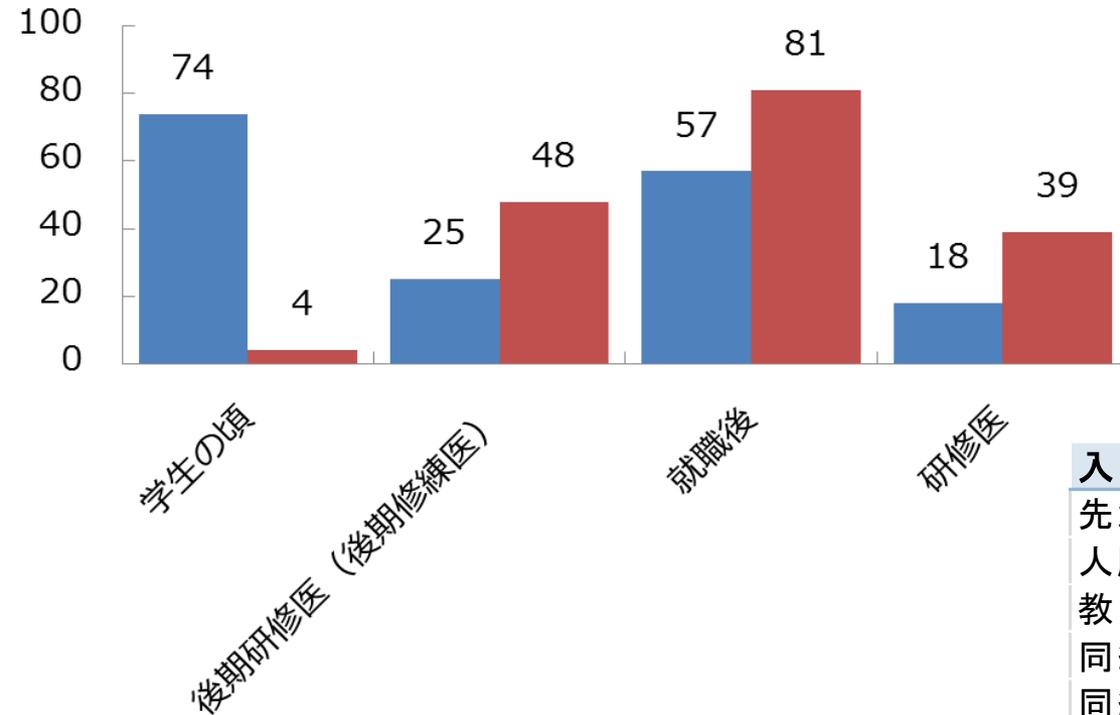


地方会



産推研入会について

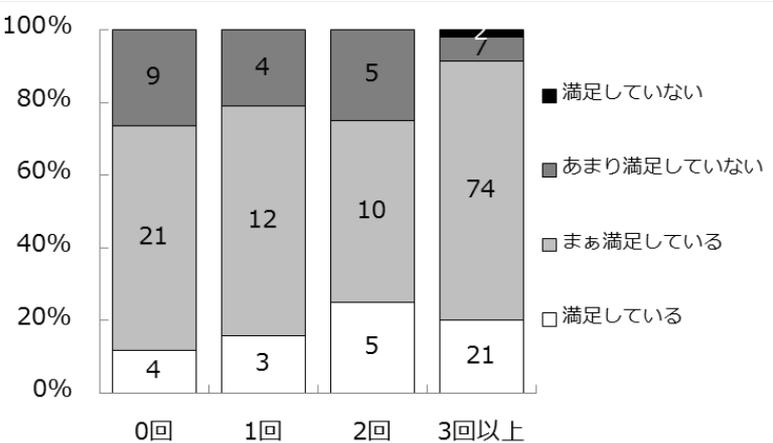
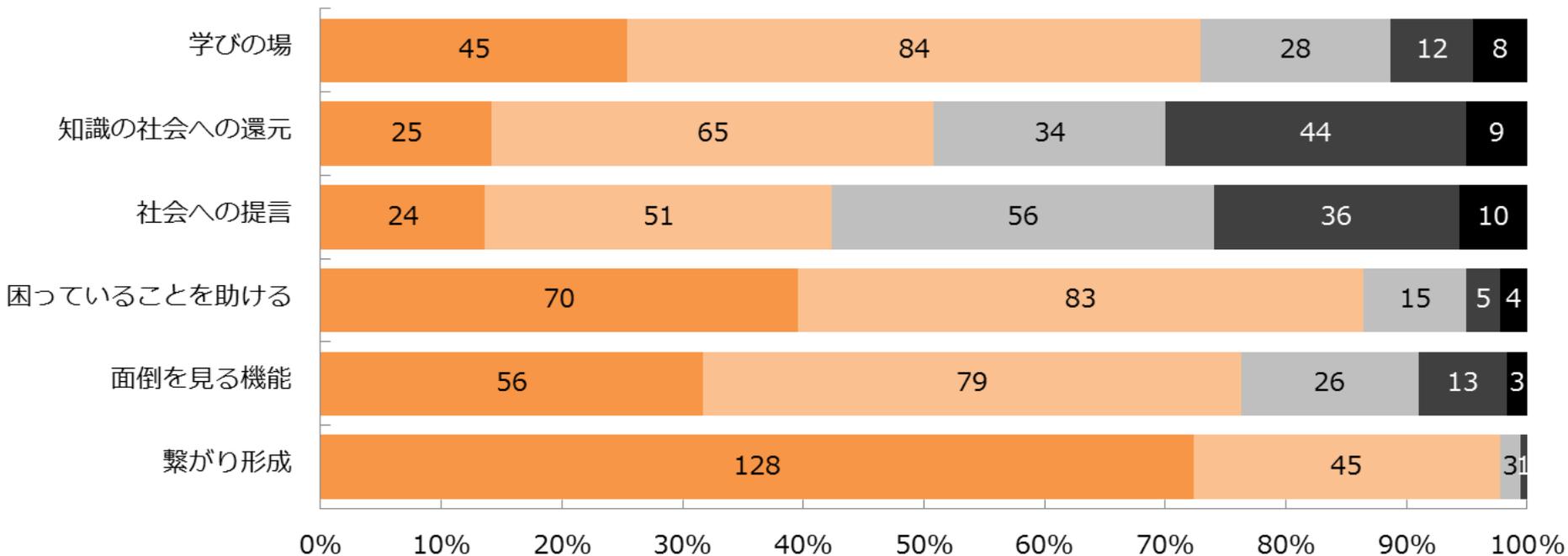
■ 知った時期 ■ 入会した時期



入会したきっかけ	データ
先輩・卒業生の勧め	74
人脈やつながりを求めて自ら参加	22
教員の勧め	19
同級生の勧め	13
同級生の勧め, 先輩・卒業生の勧め	5
大学の行事	2
メーリングリストの情報	2
特にはなし	1
設立に関与していた	1
職場にいる保健師からの紹介で	1
同級生の勧め, 教員の勧め	1
総計	141

産推研の現状について

■ ある
 ■ どちらかといえばある
 ■ どちらでもない
 ■ どちらかといえはない
 ■ ない



← 地方会参加回数別
 現在の産推研への満足度

悩んだとき頼りになるのは？

就職先	データの個数 / タイムスタンプ
大学及び大学の教員	63
大学の同窓生（先輩・後輩）	42
配偶者・パートナー	15
大学のときの同級生	12
その他の友達・知人	9
人材斡旋などの専門の業者	7
職場の同僚・上司	6
家族	3
大学及び大学の教員, 職場の同僚	2
総計	159

職場の人間関係	データの個数 / タイムスタンプ
職場の同僚・上司	41
配偶者・パートナー	35
大学の同窓生（先輩・後輩）	18
大学のときの同級生	15
家族	13
その他の友達・知人	10
大学及び大学の教員	8
総計	140

結婚、パートナーとの関係	データの個数 / タイムスタンプ
その他の友達・知人	21
家族	23
職場の同僚・上司	8
大学のときの同級生	14
大学の同窓生（先輩・後輩）	3
大学及び大学の教員	3
配偶者・パートナー	48
総計	120

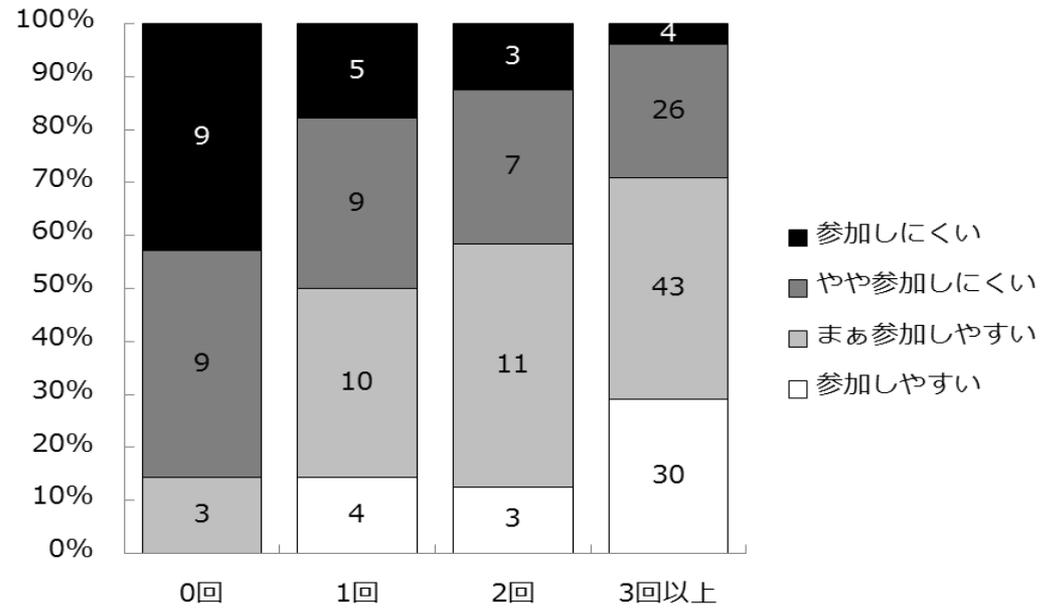
求人募集	データの個数 / タイムスタンプ
大学及び大学の教員	48
大学の同窓生（先輩・後輩）	31
人材斡旋などの専門の業者	16
大学のときの同級生	9
配偶者・パートナー	8
その他の友達・知人	7
職場の同僚・上司	5
家族	2
総計	126

給与	データの個数 / タイムスタンプ
大学の同窓生（先輩・後輩）	34
大学及び大学の教員	24
職場の同僚・上司	24
配偶者・パートナー	22
大学のときの同級生	12
その他の友達・知人	9
家族	6
人材斡旋などの専門の業者	6
家族, 職場の同僚・上司	1
総計	138

出産育児	データの個数 / タイムスタンプ
配偶者・パートナー	62
家族	18
職場の同僚・上司	14
大学のときの同級生	10
大学の同窓生（先輩・後輩）	4
その他の友達・知人	4
大学及び大学の教員	2
総計	114

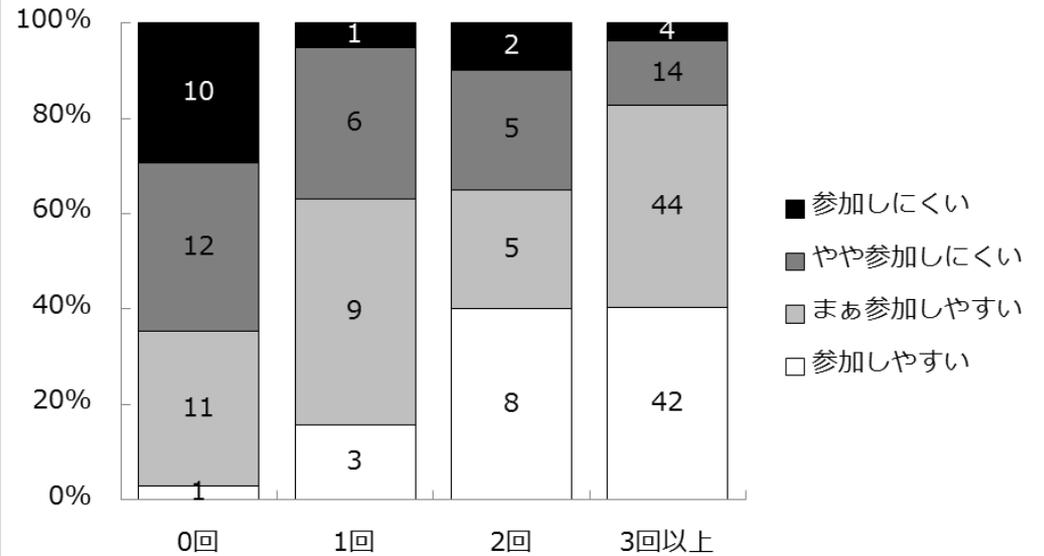
参加のしやすさ

全国大会→



全国大会の参加回数

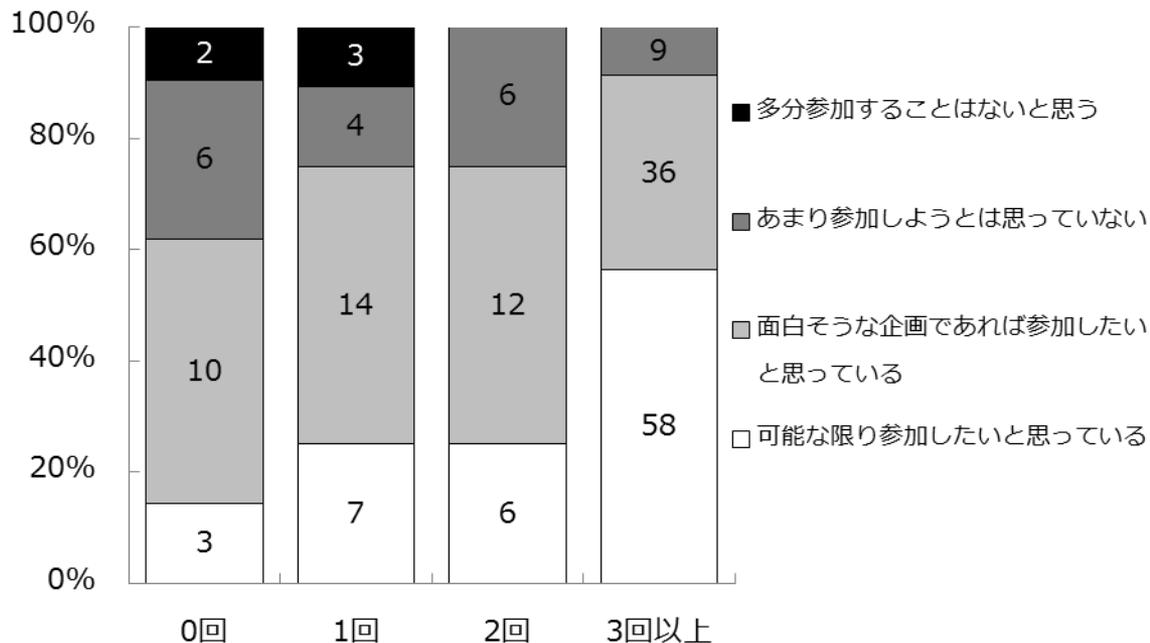
地方会→



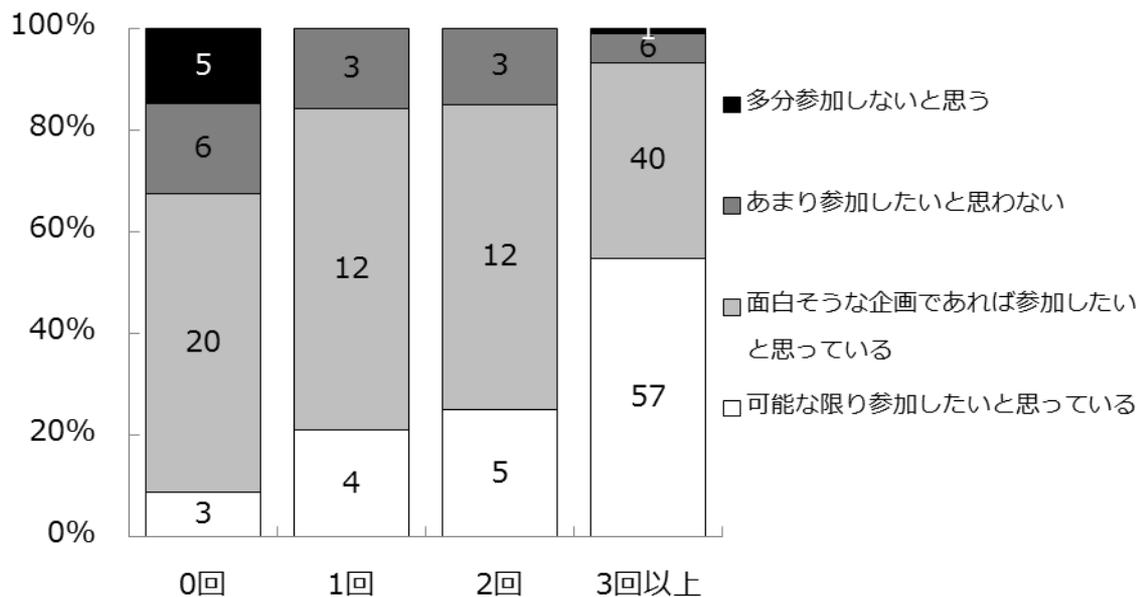
地方会の参加回数

参加の意思

全国大会→



地方会→

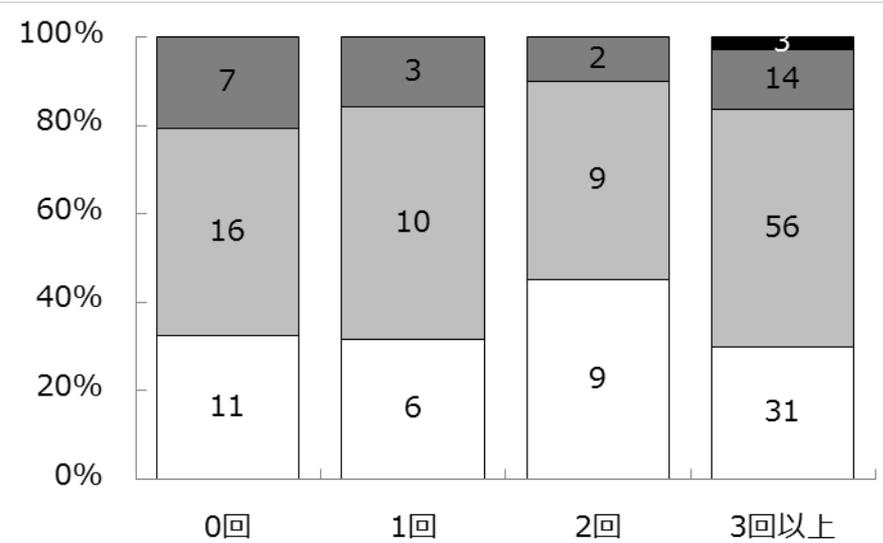
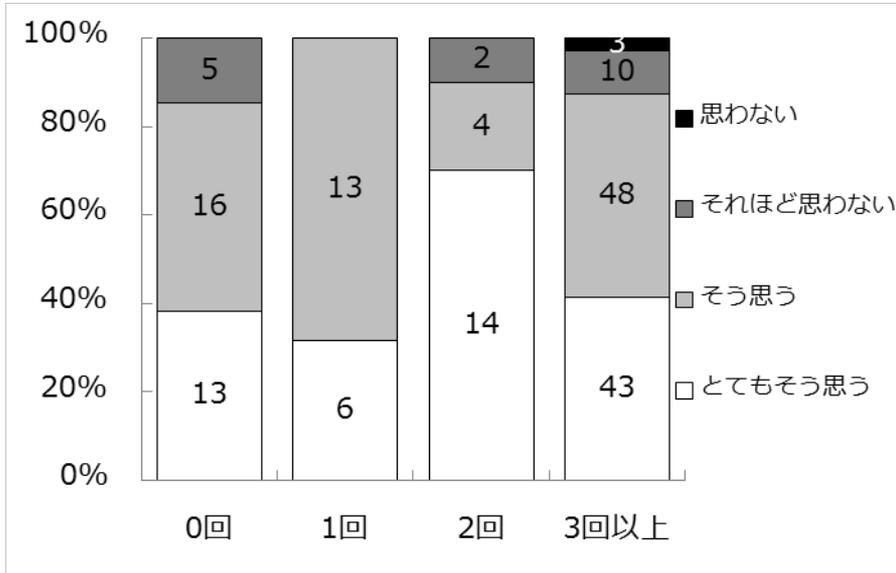


地方会の方が参加したことのない人にとってもハードルは低い
→まずは地方会参加から

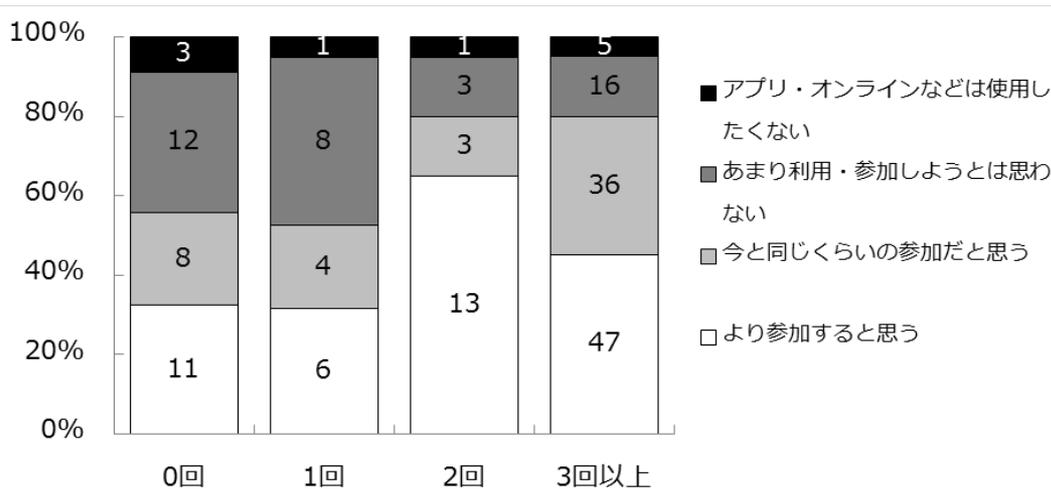
オンライン対応について

例会資料が後日閲覧できればよいと思うか

年次会報として共有されるとよいか



オンライン参加可能になれば、参加頻度は増えるか



- 例会の資料は年次会報というよりは即時的にネットで取得したいニーズの方が高そう
- オンライン参加により時間場所の制限で参加できない人の参加増が見込める
- 一方で、現地に來る人数の減少も懸念され住み分けが大事

アンケートのまとめ

- 今回は、全国大会・地方会例会に参加の多い方からの回答が多かった。
- 参加目的は「人脈形成」や「困ったときの助けを求める」こと
- 仕事関係で悩んだ時に産推研(先輩・動機など)が頼りになっている回答が多い
- 組織について学生のころから知っていたが、入会は就職後、先輩・同期からの勧めで入っている。
- 全国大会・地方会もテーマ次第で参加したい意見が約8割。地方会参加の方がハードルは低いか。
- オンライン開催も導入を検討するニーズはある
- フリーコメントとして、会の存続への否定的意見は少ないものの、刷新や目的といったものを明確にすることが重要とのご意見。

フリーコメント

1. 産業医学推進研究会（産推研）に関わって役に立ったこと
2. 産推研に対する意見
3. 医学部以外の卒業生増員のために
4. 今後果たすべき機能について

1. 産業医学推進研究会に関わって役にたったこと

【人脈形成】

- ・やる気が湧いた
- ・意識の高い先輩、後輩、同級生と一同に会せること
- ・一人じゃないよ。
- ・孤立していた初期に人脈、知識が増えた
- ・産業医になりたての頃には迷いや不安が大きかった。その時に産推研の先輩方や仲間は大きな力になった。
- ・産推研にはいり、転職を留まった。
- ・人脈。仕事や機会をもらうことができる。人脈形成が地方で産業医するのに非常に役立ちました。
- ・先輩産業医との人脈づくり
- ・多くの仲間と会えること、知人が増えたこと、同窓の皆さんとのつながり
- ・同窓生のフレンドリーの交流
- ・年代を越えた先輩との繋がり与交流。
- ・例会を通じて多くの産業医の先生や他社の保健師さんとお知り合いになれたこと
- ・就職し引っ越した際に、新たな地域での人脈形成になった
- ・若い頃に年上の先輩方と知り合えたこと
- ・同世代の産業医学の実務家、後輩の実務家、先輩の実務家、それぞれの人生のステージで成功している人普通の人と話ができることで勉強になります。
- ・業務に困ったとき、知識や経験のある先生方に相談できる(大学の所属教室は教員が忙しすぎてややハードルが高い)

【メーリングリスト (ML) の使用】

- ・ML上での先輩方の事例対応相談など。
- ・ある事例をもとにした、メールでの知識共有。集会の内容共有。いろんな場面で助けられた。
- ・メーリス上での先生方の質疑応答、地方会発表後のアドバイスや諸先輩方の失敗談
- ・メーリングリストでの質問への回答、諸先輩がたのやり取りや質疑応答。
- ・メーリングリスト内での議論や質問への回答、求人情報
- ・ML: 実地活動の疑問がタイムリーに解決されていくのを見ていてとてもすごいと思います。
- ・研修会案内 クローズの業務への質問と情報交換

【全国大会・地方会の参加】

- ・運営で上の先生と親しくなれたこと。今でも思い出話をして楽しんでいます。
- ・全国大会：先輩が違う先輩を紹介してくれて、高名な先輩とも知り合えた。
- ・20代の頃大会運営に携わったことで、先輩、後輩とのつながりができた。
- ・全国大会の実行委員
- ・全国大会や地方会事務局の運営に参画して、上下の学年の知己が増えたこと。それにより、様々な勉強

会や講演などで声をかけていただいたこと。

- ・ 地方会の研修の運営に携わることができたこと
- ・ 地方会：毎回の研究会で20期以上うえの先輩と話す機会、飲み会を通じて、その後の仕事（学会、講習会など）の依頼がくるようになった。
- ・ 地方会での出会い
- ・ 地方会の勉強会での活動報告
- ・ 同じ地区で活躍されている先輩、同僚、後輩と情報交換ができるようになったこと。
- ・ 専属産業医として社内で活動している限り、他の産業医との交流が少ないため、地方会参加によって交流ができたこと

【勉強・経験】

- ・ 各会、参加すると有意義である。しかし近年は子育て中の為、開催を平日夜や休日に設定されると参加できないことが残念。
- ・ 感性が共有できるプロ集団としての意見交換はとても勉強になります
- ・ 関東地方会の松平浩先生の腰痛これだけ体操の紹介
- ・ 松平先生の腰痛についての講義(H28.3月)、増田先生の働き方改革関連法案の説明(H30.6月)
- ・ 検討会など行政の動きについての投稿など
- ・ 行政や制度が決まっていく過程の内部情報を得ることができた。
- ・ 時間とタイミングが合って、参加すればなんらかの成果が得られること
- ・ 現在は産業衛生学会でも法的な知識習得の場を設けているが、産推研はその先駆けであったと思う。
- ・ 専門的知識や最新情報共有が出来る。同窓だからこそ、共通した悩みを共有し一緒に解決出来る
- ・ 勉強会で得た知識で研究のきっかけ
- ・ 実践に生かせる研修を受講できたこと、更にそれが低価格であったこと
- ・ 書籍執筆の経験
- ・ 他社の情報が容易に得られること
- ・ 迷うことについて進めるときに、他者の様々な意見を聞くことができる。

【求人情報】

- ・ 求人案内で転職できた。求人でも優秀な卒業生が人材確保できた。

2. 産業医学推進研究会に対するご意見

【研究会の組織として】

- ・その名の通り産業医学を推進する会(実学の知見や、世間に認知含め推進する方法を考える)会でもよいかと。
- ・旧 C コース在籍中の卒業生が大学病院などで勤務しているときからでも参加しやすい会になれば知識共有の面などでより良くなると思う。
- ・産業医学を推進する卒業生は臨床サイドにもいらっしゃると思います。もっと臨床医学をされてる卒業生も取り込んでいく必要があるかと思います。
- ・産業医大の同窓会的機能は維持しつつ、若い世代や看護職や衛生管理者の会員を増やす工夫が必要。大学教員をもっと協力するべき。
- ・時代によって、産推研のあり方も変化して行くべきものだと思います。十分な議論をよろしくお願いします。
- ・世代やジェンダーのバランスをうまくとると、活性化につながるように思います。ML 参考になります。運営に携わる先生方ありがとうございます。
- ・全国の産業医の Top を目指す方が集まる会になるといいですね
- ・他学出身の方々が産業医を主要なキャリアとして考えてくれるようになった時代、ライバルが登場してきて時代、だからこそ、産推研の価値も高まるのではないのでしょうか。ただ、まじめに産業医をやっているだけでは評価されない時代になってきていると思います。その差別化を図る主要なピースとして産推研は重要だと思います。
- ・産推研の活動を核とするも、卒業生だけでなく広く知識と経験を求めている人達への情報提供する機会も作ればよい。
- ・同窓会、卒業生の交流の場で良い。逆にそうでなくなると卒業生の繋がり場がなくなる。
- ・同窓会としての位置付けは必要だと思います。
- ・役割を果たせていませんが、やるべきことがあれば役割を果たすべきと考えておりますし、活動に期待もしています。

- ・あまり、力と、時間、(お金)をかける必要はないのでは？同窓でも様々な立場・キャリアの医師がいるため、勉強を目的とするのは難しいと思う。産業医大卒の情報提供の場(行政・時事トピック・募集)に留めるべき。
- ・最近ではただの懇親の場になっているような気がする。ベテランはステレオタイプの産業医を美化しすぎている。新たなステージを目指さなければ滅びると思います。
- ・産業医大卒業生、関係者に会員をしぼることは意味があると思います。全国大会の目的が親睦であるのに、それに沿った企画をしたことに対して来賓から苦情を呈されたと伺いました。それが事実なら全国大会の方針を変えるか、来賓へ理解を求めるか、どちらかは必要と思います。
- ・卒業生だけのクローズな場なので今更こんなことという悩みを相談できる場です。知識は外にオープンだけど親睦の場はクローズがいいと考えます
- ・先輩が手本になって専門医制度や教育制度をつくりその教えを伝える形は、古き良き時代には FIT するが、変化の大きな現代ではむしろ淘汰される。チャレンジを促進し、共に学ぶ(アクティブラーニング)姿勢が生まれ、医学に囚われずに会社や組織・人にとって重要なことに焦点を当てて考えていかない限り、進化は困難と思います。
- ・本会は「先輩が後輩の面倒を見る」というコンセプトで動いている。本会に出席することで、何かを得られると思うのではなく、何かを与えるために来るのである。そして誰もがその「何か」を持っていることに気がつくべきだ。
- ・若い年代と上の先生方の双方向の学びの場になるのが理想だと思っています。社会貢献を全面に押し出すことは良いと思いますが、それによって新規加入者にとってハードルが一気に高くなる気がします。

・ごく一部の方なのでしょうが、懇親会でベテラン世代の先生が若手へ説教をしていたり、セクハラのような発言をすることがありました。まるで部活のOB会のように感じました。卒業生ならではの上下関係があるのはしょうがない事ですが、参加が面倒に感じる要因の一つとなっています。

・少し硬い感じがする。産業医もいろいろいるパターンがあるので、偉い先生方の話よりそういう方の話を聞きたい。懇親会はなかなか入りづらいのでは。

・メーリングリストでの発信内容が産業医や保健師の斡旋や紹介となっていることに疑問を感じる。就職先の斡旋は卒後支援課等に集約し、メーリングリストは情報交換や質疑応答などの場とすべき。メーリングリストでの情報交換が望ましくないのであれば、会員制の掲示板（m3）のような場を設けて、新任の産業医や保健師にも発信しやすいような場を設けるべきと感じる。

・以前MLで口論のような激しい応酬があり、それ以来投稿が怖くなった。そのようなことがないよう改めて周知してもらいたい

・少なくとも、老害は避けるべき。

【研究会の企画について】

・産推研として、今後求められるのは、日本発の産業医学を構築することにある、そのためには、100万人コホートを構築することが必須です。それができるポテンシャルがあるのになぜそれをしようとしませんか？理事会でよく議論してほしい。J-ECOHがすばらしい結果を出しているのを参考に、是非産推研が世界の産業保健をけん引してほしい！！

・仕事の情報交換と斡旋

・専門医の社会的地位の向上。専門医数の増加施策の検討

・全国大会とは別に全国展開で教育研修事業があっても良いと思います。海外の産業保健の実態を知る機会を産推研が作れるとよい。

・地位報酬アップに繋がる活動

【研究会の運営に関して】

・現執行部のご苦勞を労ったうえで、世代交代を強く期待する。

・年齢制限や任期を設け、組織がリフレッシュしていく仕組みが必要。

・産業医大以外の出身で、産業生態科学研究所に所属している先生も増えて来たため、そのような先生が入会できるように基準を見直すべきだと思います。

・若手を積極的に登用すべきだと思います。

・新しく生まれ変わって、活動的な会を期待します。

・大学側の宣伝臭を薄め、懇親、ネットワーク形成を、朝まで産推研の復活。

【その他のご意見】

・いつも楽しみにしています。

・医師として、出来る限り、健康で働きたいと思います。65歳過ぎても、働ける場所を斡旋していただければ助かります。

・会の運営、ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

・今後も、できる限り参加しますし、協力します。

・今後も発展し続けてほしい、いつもありがとうございます

・今年行かなかったのは、体調がいられないほど悪かったのではなくて、単に日程と学校行事が合わなかった

けです。(連続参加記録喪失者より)

・今年入会したので、まだ詳細わからず、積極的なご意見もできませんでした。すみません。今後は、できるだけ参加したいと思います。よろしくお願ひ致します。

・仲良くやってください

3. 医学部以外の卒業生増員のために

【学生へのアプローチ】

- ・4年次の保健師コース決定時のオリエンテーション産推研が費用補助を行なった上での環境マネジメント学科の卒業生ミーティングの実施。
- ・これまでのように、学生の中から積極的に産推研への参加費、旅費を補助して招待し、こちらからアプローチしていく。
- ・学生時代に会員になれることを知らなかったため、学生時から入会できていたら、もう少し興味を持って、卒業後から入会していたように思います。
- ・看護学科であれば、学生在籍時の保健師コース選択の際と一緒に産推研紹介、希望があれば入会についての宣伝を行う。
- ・看護学科や環境マネジメント学科の教員が積極的に参加する。
- ・看護学科4年次の保健師コース(?)選択時の広報活動。

【運営について】

- ・いつも全学部にはせず、分科会があってもいいかも。分科会とオブザーバー参加。分科会を作る。
- ・そもそも若手は会員になっていない。そのため、全国・地方会に限らず、実行委員や当日の手伝い等から、会に引き込んで、会を認知してもらうところから始めるのが良いのでは?と思います。
- ・医学部卒業生が前に出過ぎない。
- ・会長は医学部、看護学科、環境マネジメント学科の卒業生が交代で勤める。
- ・核になる人選、成功モデル?の提示、何より参加促進の補助金
- ・学会長を保健学部卒業生にお願いする
- ・看護学科や環境マネジメント学科の卒業生も幹事になると良い
- ・看護学科や環境マネジメント学科を対象にした集まりの場も設ける(医学科の参加は任意)
- ・看護学部や環境マネジメント学科の会員の中から、代表を数名立てる等
- ・産業保健学部のみで集まる会があると参加しやすいのでは。医学部から多めに活動費を集めて、少し保健学部に援助するなどが良いと思われる
- ・産推研大会ごとに、各科の活動紹介を入れる。
- ・趣旨が伝わっているかだと思ふ。保健学部は別にメーリングリストがあるので 医学部だけのメーリングリストもあって良いと思ふ。
- ・同学部OBの参加、分科会の立ち上げ、業務の整理。
- ・匿名でもMLに質問できる仕組みを作ってもよいと思ふ。匿名相談(事務局代理)
- ・内緒話の投稿ができるといいかな、と思ふ。看護学科、環境マネジメント学科用の。
- ・発表者、運営者 看護学部やマネジメント学部だけのメーリングリストや部会をつくる
- ・理事会の刷新。

【活動において】

- ・ML以外で気軽に相談できるツール(ウォールへの書き込みなど?)があると良い。
- ・ざっくばらんに相談できる雰囲気と場の形成。
- ・そもそも相談できるという環境としては機能していないように思われる。メーリングリストでの相談はたまに見かけるが、心理的障壁は非常に高く、相談できない会員がかなりいるのではないのでしょうか。もっと気軽に質問できる掲示板などがあればいいのではと思ふ。

- ・テーマによっては対象者を明確にして分けた方が、相談する側はしやすいのではないかと思います。
- ・メーリングリスト。メーリングリストはハードルが高いため、分科会等でもう少しだけた会を設けるのはいかがでしょうか。
- ・過去の求人や、関連する情報をまとめて閲覧できるようにする。
- ・各学科卒業生の登場回数を増やし、情報発信していくこと。
- ・環境マネジメント学科の卒業生からの情報発信の頻度・機会を増やす
- ・看護や環境の先輩の参加、企画を増やす。看護や環境の若手の活動報告による医学部会員の活動理解
- ・看護や環境の先輩方の参加（講師としてなど）
- ・看護学科、環境マネジメント学科のニーズの掘り起こしが必要かと思います。
- ・看護職・衛生管理者等の活動報告などを増やし、議論できる場を形成する。
- ・距離の近そうな若手産業医が相談にのる（課題解決と一緒に取組む）場を企画するなど
- ・今後の産業保健は、他職種連携がかかせないので、職種に限らない交流ができるような企画が多くなればよいと思う。また、懇親会では、職種間の交流ができるような雰囲気づくりも必要であると感じる。
- ・産業看護職の役割、知識、技能、コンピテンシーを明文化すること。現在は産業医との役割分担が不明瞭と感じます。
- ・産業保健学部のみで集まる会があると参加しやすいのでは。医学部から多めに活動費を集めて、少し保健学部に援助するなどが良いと思われる。
- ・産推研大会ごとに、各科の活動紹介を入れる。
- ・多くの学科の卒業生が会の中で活躍することが最も重要と考えます。
- ・地方会・全国大会等の自宅からのオンライン参加。
- ・地方会でそれぞれの学科の卒業生が参加しやすいイベントを行うことなど
- ・地方会において相互の意見交換
- ・地方会例会に参加しやすいテーマにする（看護職・衛生管理者の講師を呼ぶなど）
- ・幅広い参加。幅広い出身学部の卒業生が活動すること。
- ・毎回必要でなくてもよいが、看護学科や環境マネジメント学科生が興味あるテーマを選んではいかがでしょう
- か。
- ・両学科の教員が会員になること、また、卒期の上の方の卒業生が入会すること。
- ・例会に参加する看護学科や環境マネジメント学科の会員を増やす。卒後すぐに例会に参加するように促す。

【その他】

- ・産業保健チームがとらんでであることを皆で確認する。労働安全衛生法の改正について協力をロビンを行う。

4. 産業医学推進研究会の今後果たすべき機能

【研究において】

- ・ コホート研究の充実のため、産推研が果たす役割は大である、エビデンスを作ることにもっと注力すべき。
- ・ 産業医学に関する制度への提言を前提とした研究活動。
- ・ 産業衛生学会の発展への貢献は必要と思います。
- ・ 産業衛生学会への提言。
- ・ 学会等の表彰制度に卒業生を推薦するなどで良質の活動を世に知らしめる役割。
- ・ 名前の通り、産業医学研究を進めていくことで社会に貢献すること。

【社会貢献】

- ・ 50人未満の事業場に対する産業保健サービスの提供方法
- ・ コンセンサスなど社会への啓発活動
- ・ 医師会等の既存の組織と共存しながらの社会的な発信が良いと思う。こちらから連携を模索するというよりは、先方から依頼が来る形で社会貢献するのが望ましい。
- ・ 会員の社会的地位の強化、知識、技能、コンピテンシーの強化、問題解決能力の向上、社会への説明
- ・ 緊急性があり産業医学関係者が関わるのが有意義なことについてのネットワークを活用した情報発信(例として震災時に行った情報発信など)
- ・ 産業医の学びの質を良くしたうえで、病気に拘らず、個人の幸せと会社・組織の発展に貢献すること
- ・ 産業医の少ない地方にも目を向けた活動を
- ・ 産業医科大学OBが培った技術を、社会に水平展開すること(情報発信した人の利益は確保)
- ・ 産業医科大学卒業以外の方々が産業保健に関心を持つようになっていくことに対して、産業医科大学卒業生の差別化、ブランド化を図るために、産推研の活動が資すると良いと思います。
- ・ 産医大卒だけで運営されるのであれば、社会貢献は産業医科大学が責任を持つべきであり、私的な研究会が果たす必要はない。むしろ大学にさらなる責任をもってもらいプレゼンスを発揮して欲しい。
- ・ 産業医学関連の社会問題について、専門家として国に提言が出来ると良いかと思います。
- ・ 産医大が培った産業医学のエッセンスをもって、各地方の産業医活動の普及、活性化に貢献する(他学出身産業医を対象とした教育活動ふくめ)
- ・ 日本産業衛生学会の理事など関係学会の役職に卒業生を送り込み学会をリードする役割。
- ・ 産医のみならず保健師や衛生管理者の質を高めていく役割。
- ・ 産医大卒以外の専門職へも、現場の経験、活動成果を発信していくこと。
- ・ 産医大卒業生が産業保健分野で活躍していることを示す目的で、現在産業会にある問題を提起したり、その具体的な対策案をまとめたり、またその実現のためにどのような活動を地道に行っているかを社会の人たちが分かる形で情報提供していくこと。
- ・ 産業保健(産業医学)を他の臨床科と同様に体系立てた教科書の作成
- ・ 産業保健のネットワークを広げる。産医大卒の縛りは必要でしょうか？
- ・ 産業保健学部の卒業生も社会貢献できるような体制にしてほしい
- ・ 産業保健活動に関連したシンクタンクとしての役割
- ・ 少子・高齢化の視点でも、日本の産業界の課題は多いと思います。今後、楽観主義やレジリエンスの視点は重要だと思います。
- ・ 新たな産業医の目標、モデル形成、政策提言・ガイドラインの作成
- ・ 他学との交流を積極的に行い、相互に成長することを目指してほしい。

- ・他学卒業生の育成をどこかの段階で考えるべきかもしれない。
- ・直接的に産推研自体が社会へ提言するというより、同窓生が産推研内で継続的に学習し成長し、結果的に同窓生それぞれに様々な階層でのコミュニティ(同窓生間/会社/地域/行政等)で発信する機能を持たせ続ける役割を持っているのではないかと思う。
- ・特に経営的な視点を持ったプロ産業医の知識・技能向上の場として、学外に開放。
- ・立法、行政機能、社会保障制度改革の提案
- ・臨床の先生たちとの交流の機会をもっと増やす。学術団体として、提言やガイドラインを作成するなどして、オフィシャルな街としてのプレゼンスを本領域で高める。
- ・本当の産業保健プロ集団としての役割
- ・会の名のように産業保健の推進を担う役目があってもいいのかも 同窓生連携強化クラブ的な役目が多いように思う。

【会員に向けて】

- ・会員のサポートの方が大事では？
- ・現在、看護職の参加が少ないので、職種に関係なく、気軽に話し、交流できる場になることを期待したい。現状は、若手産業医をメイン対象としている感があり、足が遠のきそうである。
- ・好事例など模範像とともに失敗事例なども（覆面でよいので）赤裸々に表現し、適正化を図る産業保健指導者としての役割。
- ・参加してる産業医や保健スタッフの知識や能力向上を図ることによって、企業や働く人々に貢献できればそれだけで十分かと思います。そこに焦点を当てた、参加のハードルが低い会であり続けてほしい。
- ・産業医大と協力して、優秀な産業医を育成することだと思います。
- ・産業衛生学会がある以上、産推研の役割はある程度内向きでも良いと思う
- ・同窓会活動に絞り、活動自体は学会レベルで展開する
- ・産業保健スタッフの心・技・体の向上
- ・社会への提言は学会で十分。産業医科大学卒業生だけが集まるこの会の意義はもう少しクローズドであってほしい。それゆえの情報共有、公開、議論ができれば、学会ではできない役割があるのではないか。また、ビックデータが注目される今日、逆に雑多な枝葉の経験、日常の経験、そこからくる改善、工夫、に実は価値があると思います。そこを拾い上げることができる会になれば、他の会合とは差別化された、不滅の価値を生む会になると思います。
- ・非常に難しいですが、Mission が明確でない組織は空中分解が避けられないと思います。6-1にあるような活動は、産推研以外にもあると思いますので、産推研のような大きな組織は、6-1にあるような活動を行なっている集団を把握した上で、総合窓口のようになるのは一案かもしれません。「あ、その相談なら、ここに行けば一番いい相談になると思いますよ。」と道案内をしてくれる組織、という役割は如何でしょうか？

【その他のご意見】

- ・本来、年齢的に、「還元」世代ですが、役に立たなくて申し訳ありません。隅っこにおいてやってください。